

ちょっと待って、その餌付け！

野生動物の餌付けはやめましょう！

野生動物への餌付けは、感染症の拡大、事故の誘発、行動の変化といった問題を生じさせます。目の前にいる動物だけでなく、周囲の環境や生態系にまで変化を生じさせることがあります。一人一人の行為は小さくても、積み重なると大きな影響を及ぼします。



感染症が広がります！

餌付けによって野生動物が多数集まったり、過密状態になったりすると、感染症の拡大リスクが高まります。近年、オジロワシやオオワシなどの希少動物においても、高病原性鳥インフルエンザの感染事例が増えています。餌付けは、多くの野鳥に大量死をもたらす危険があります。



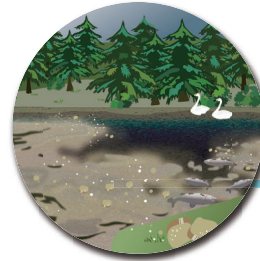
餌付け写真は不自然です！

写真を撮るために、野生動物を近づけようとして餌付けをする人がいます。中には、集客や営利目的で餌付けが行われている場合もあります。そうした場所での観察や撮影は、できるだけ控えてください。餌付けに集まる不自然な姿ではなく、本来の野生の姿を探しましょう。



野生動物との距離を保って！

近づきすぎると、野生動物のもつ感染症に人や家畜が感染するリスクが高まります。また、交通障害や事故を招くおそれがあります。野生動物が人に慣れて市街地に出没したり、危害を加えたりすることもあります。人と野生動物の適切な距離を保ちましょう。



自然環境にも影響します！

人の持ち込んだ餌が、自然環境を悪化させることがあります。たとえば、池や湖にパンやスナック菓子が大量に投入され、水質が悪化し、固有魚が死滅したと考えられる事例もあります。餌付けの影響は、周辺環境に広がるおそれがあります。



餌を与えているつもりはないけれど…

知らないうちに、野生動物に餌を与えてしまっていることがあります。代表的なものが人間の出すゴミです。狩猟後に放置されたシカの死体なども、野生動物を引き寄せてしまいます。こうした間接的な餌は、過密化などの問題を引き起こすため注意してください。



給餌と餌付けは違います！

環境省などでは、絶滅が危惧される生物に「給餌」を行っています。「給餌」は、生息状況を調査しながら効果や影響を把握したうえで実施し、必要がなくなれば減らしたり止めたりします。「給餌」と「餌付け」の違いを理解し、不要な餌付けや悪影響のある餌付けはやめましょう。